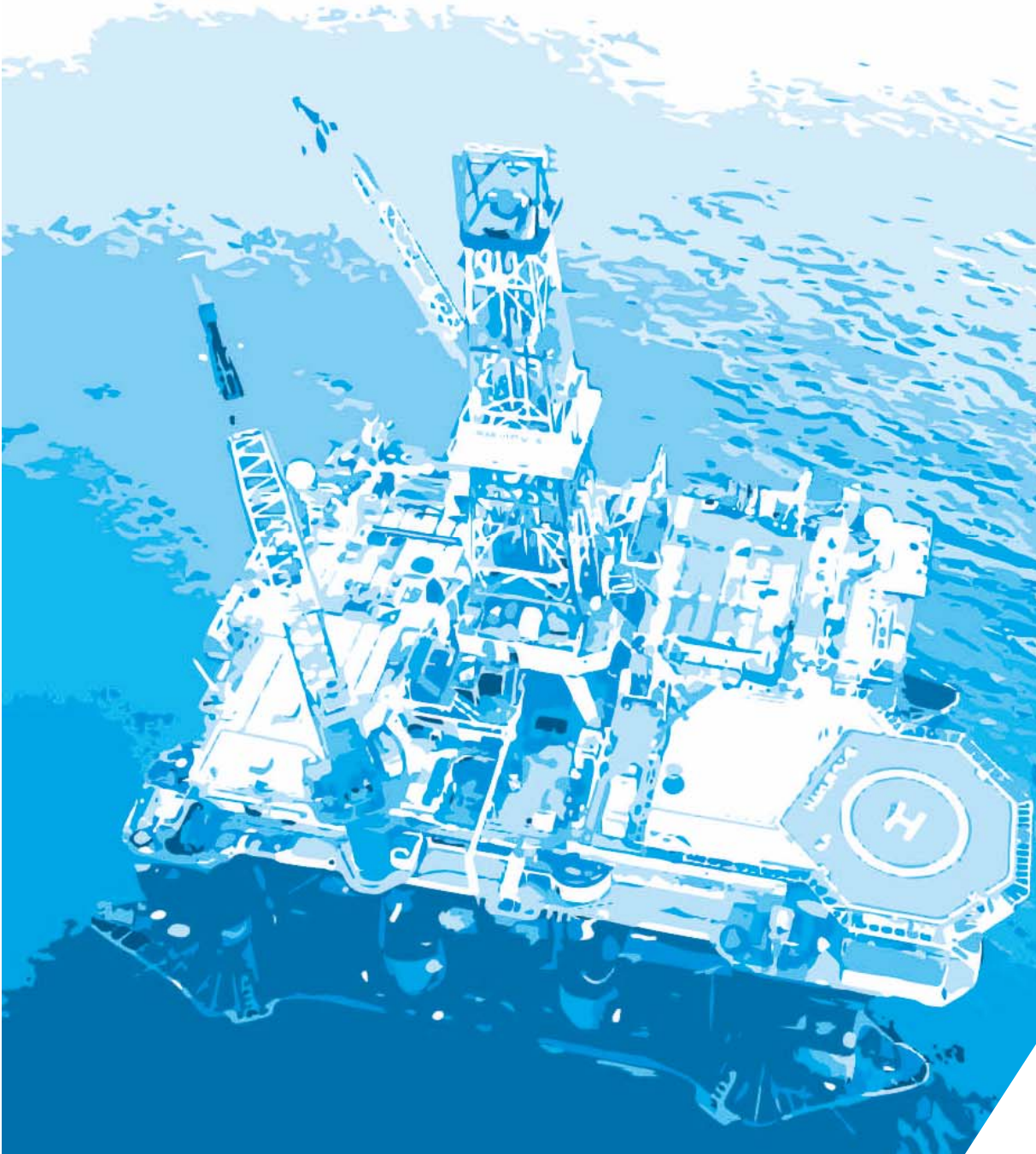




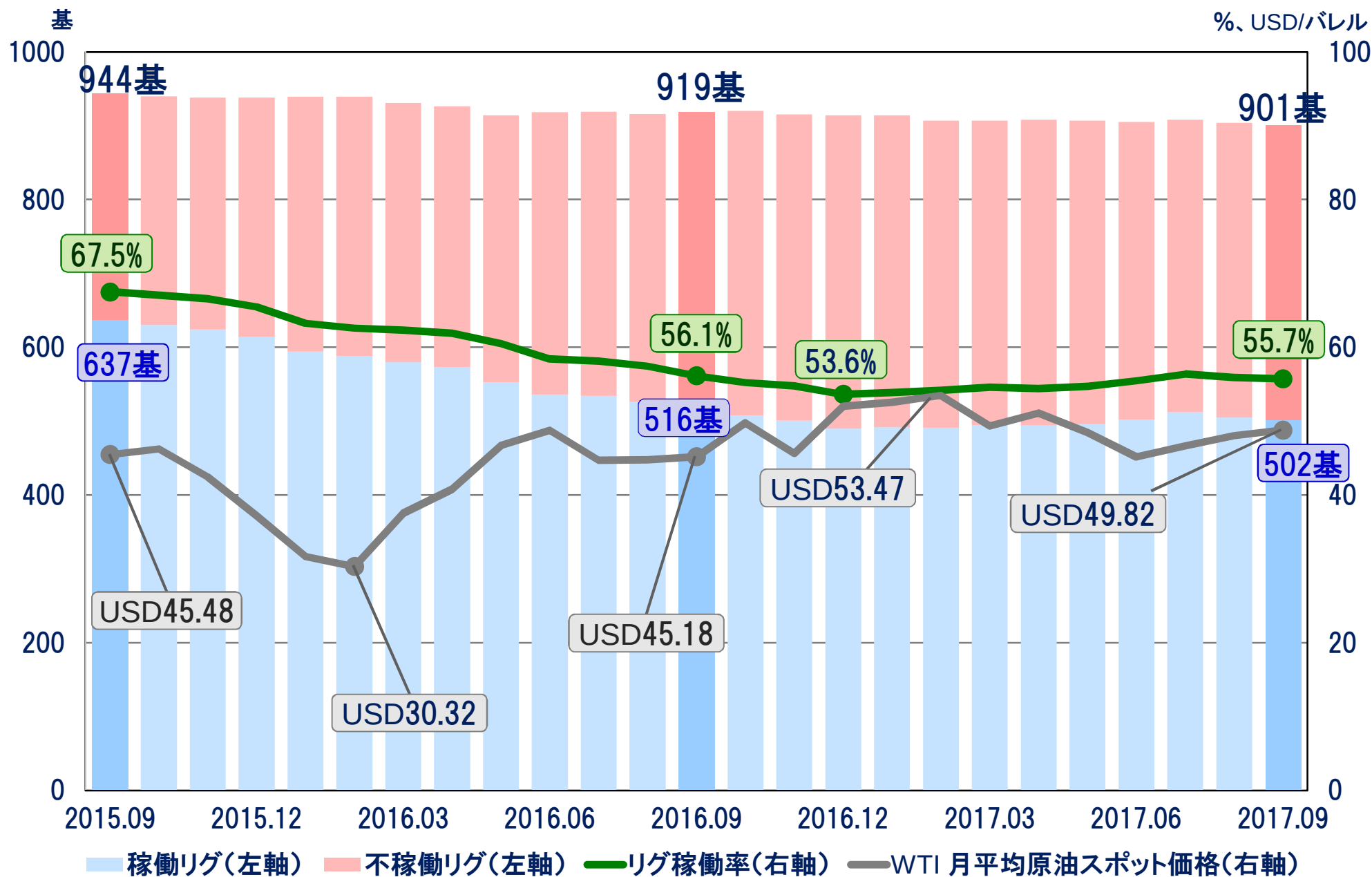
2018年3月期 第2四半期 決算説明資料

2017年11月8日開示

1. マーケットレビュー
2. 2018年3月期第2四半期 決算概要
3. 2018年3月期 業績予想
4. 業績回復への道筋

1.マーケットレビュー

原油価格とリグ数・稼働率の推移



主要海域別リグ稼働状況

2017年9月時点

世界全体

↓ 901基(-18基)
↓ 502基(-14基)
↓ 55.7%(-0.4P)

北西ヨーロッパ

↓ 103基(-6基)
62基(0基)
↑ 60.2%(+3.3P)

地中海・黒海

↓ 33基(-1基)
↓ 16基(-2基)
↓ 48.5%(-4.4P)

メキシコ湾 米国側

↓ 95基(-11基)
↓ 35基(-2基)
↑ 36.8%(+1.9P)

メキシコ湾 メキシコ側

↑ 49基(+2基)
↓ 28基(-1基)
↓ 57.1%(-4.6P)

中東

↑ 179基(+9基)
↓ 115基(-6基)
↓ 64.2%(-7.0P)

極東

59基(0基)
↓ 41基(-3基)
↓ 69.5%(-5.1P)

インド洋

↑ 50基(+3基)
↓ 41基(-4基)
↓ 82.0%(-13.7P)

東南アジア

↓ 114基(-3基)
↑ 60基(+7基)
↑ 52.6%(+7.3P)

南米

↓ 93基(-5基)
↓ 47基(-4基)
↓ 50.5%(-1.5P)

西アフリカ

↓ 66基(-9基)
↓ 28基(-1基)
↑ 42.4%(+3.7P)

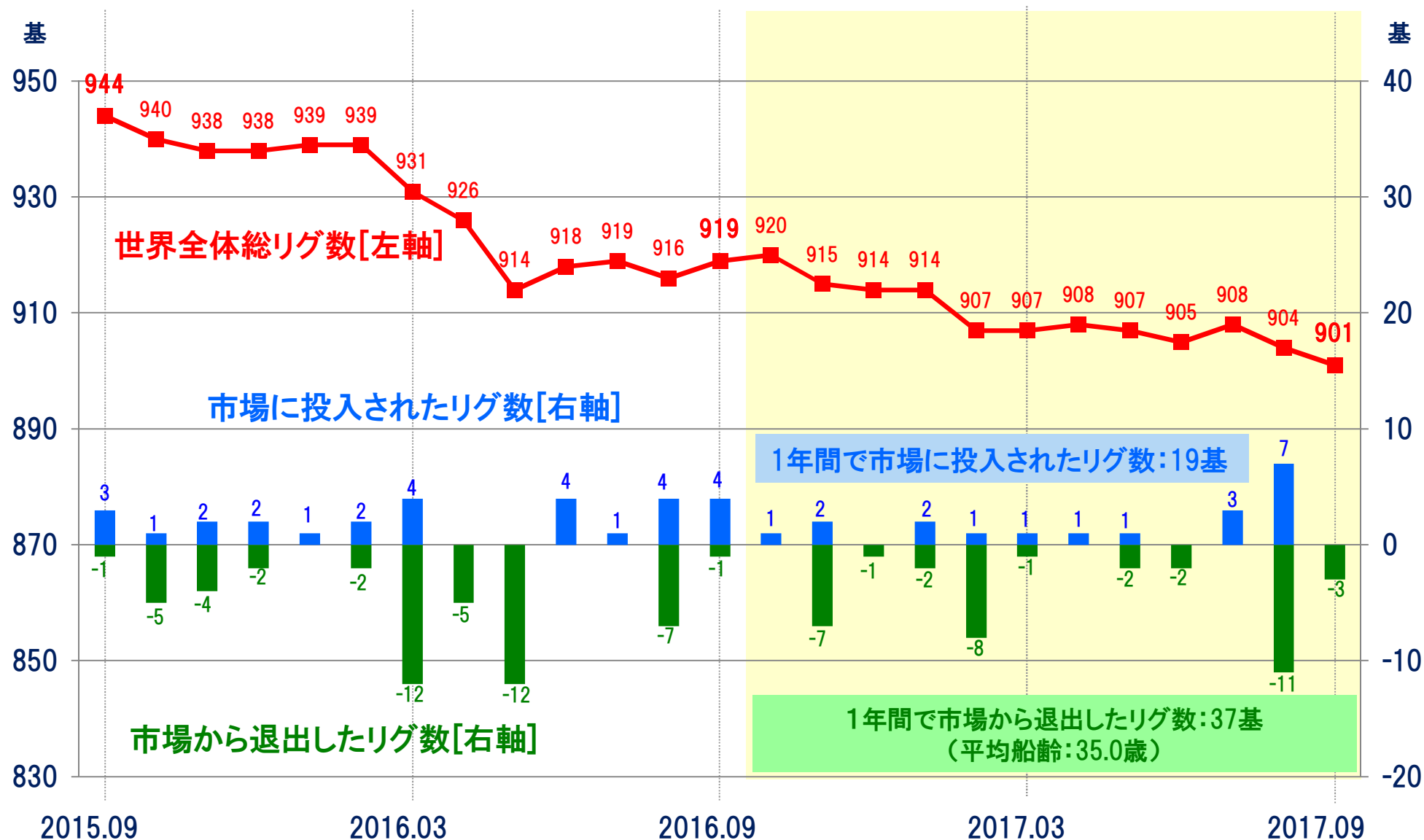
その他(カスピ海等)

↑ 60基(+3基)
↑ 29基(+2基)
↑ 48.3%(+0.9P)

稼働海域

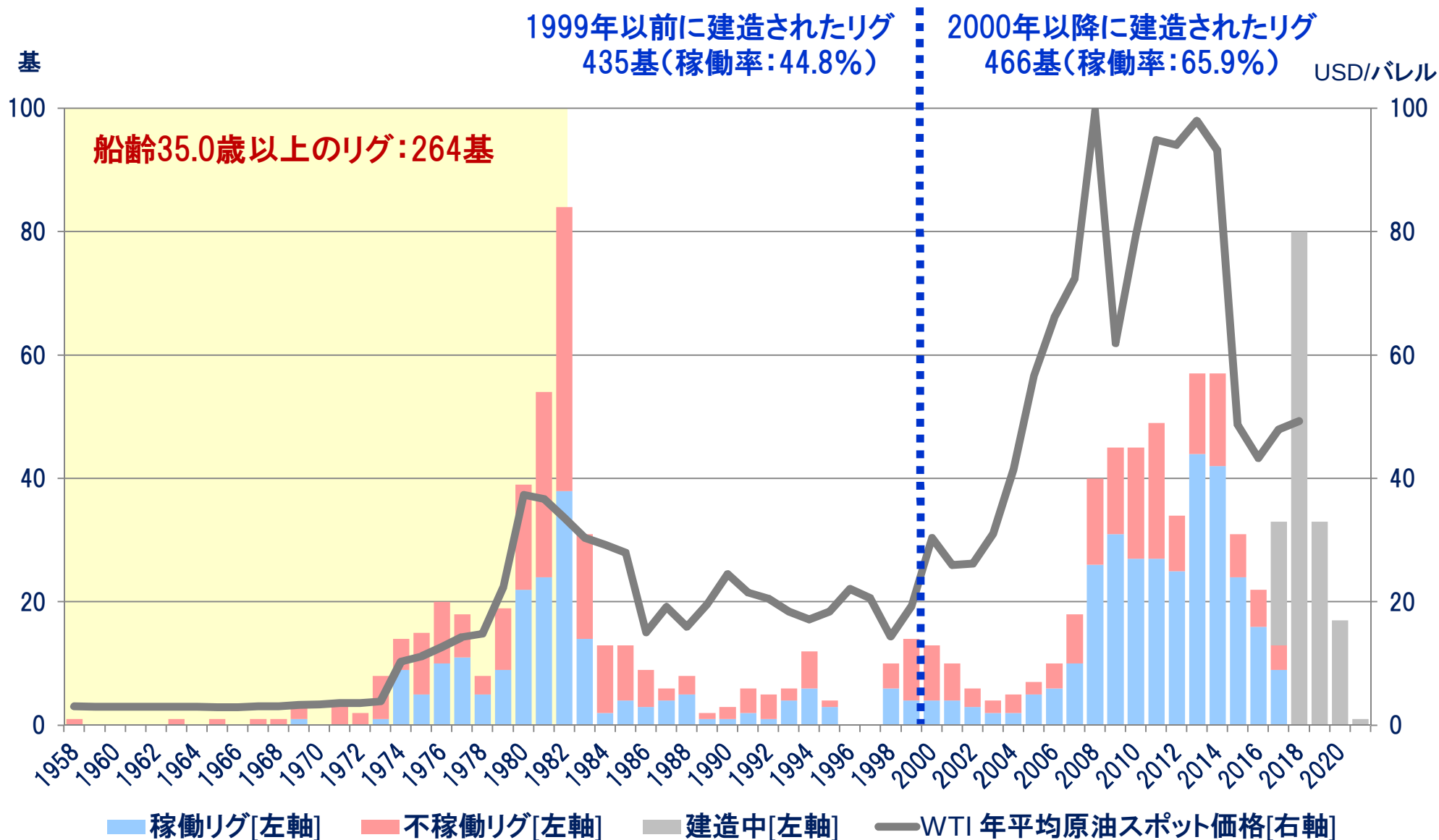
上段:総リグ数(前年同期比)
中段:稼働リグ数(前年同期比)
下段:リグ稼働率(前年同期比)

総リグ数とリグ数増減の推移



原油価格と建造リグ数の推移

2017年9月：総リグ数901基、建造中リグ数151基

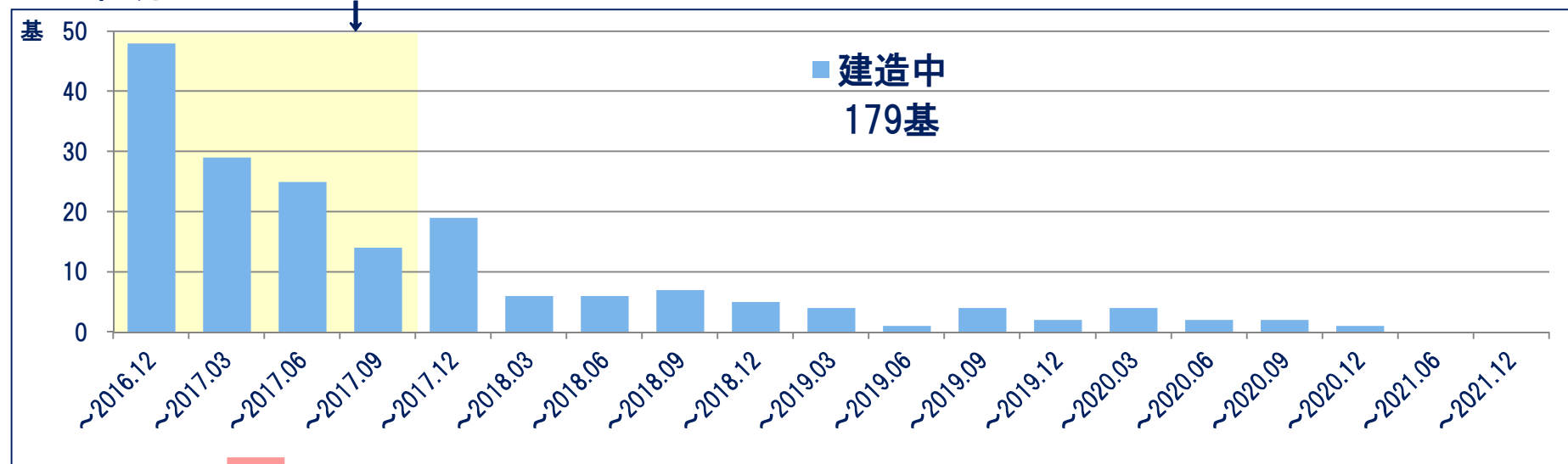


延期されるリグの完成引渡時期

建造中リグ(2016年9月時点)179基の完成引渡予定日の動向

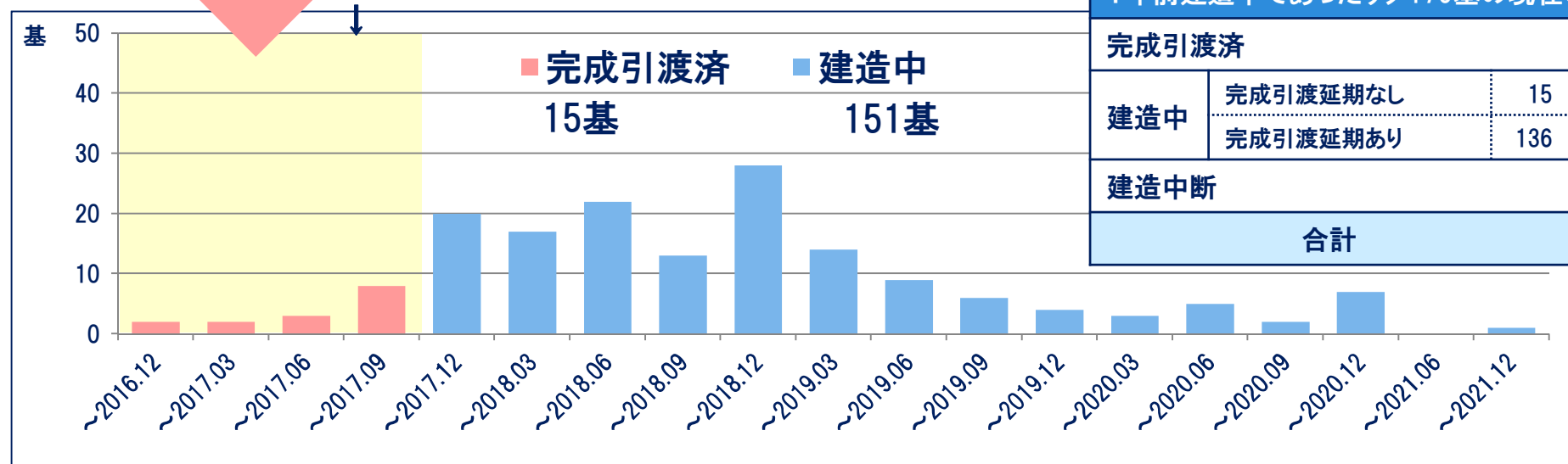
2016年9月

2017年9月までに完成し、引き渡される予定であったリグ:116基



2017年9月

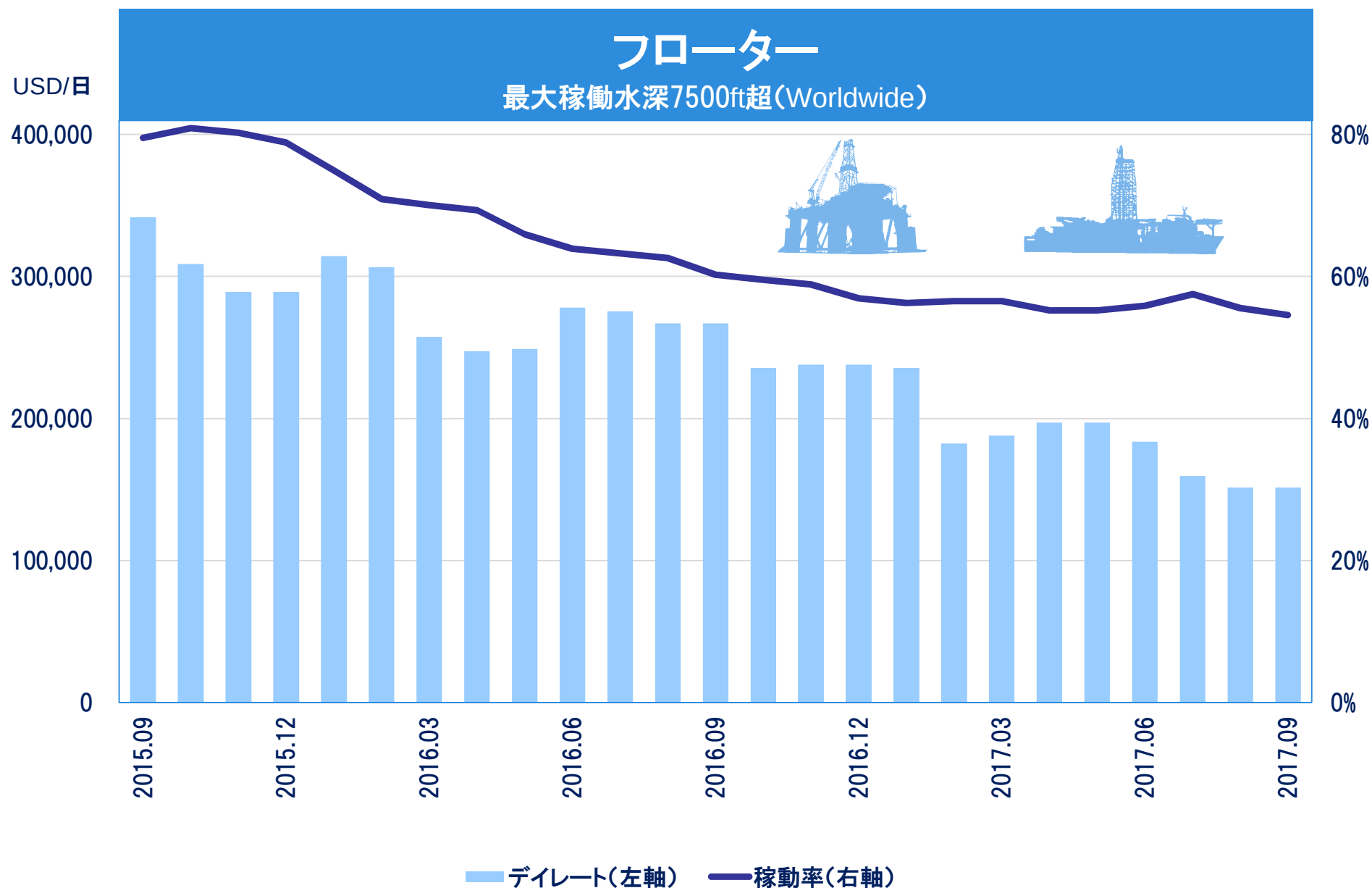
2017年9月までに完成し、引き渡されたリグ:15基



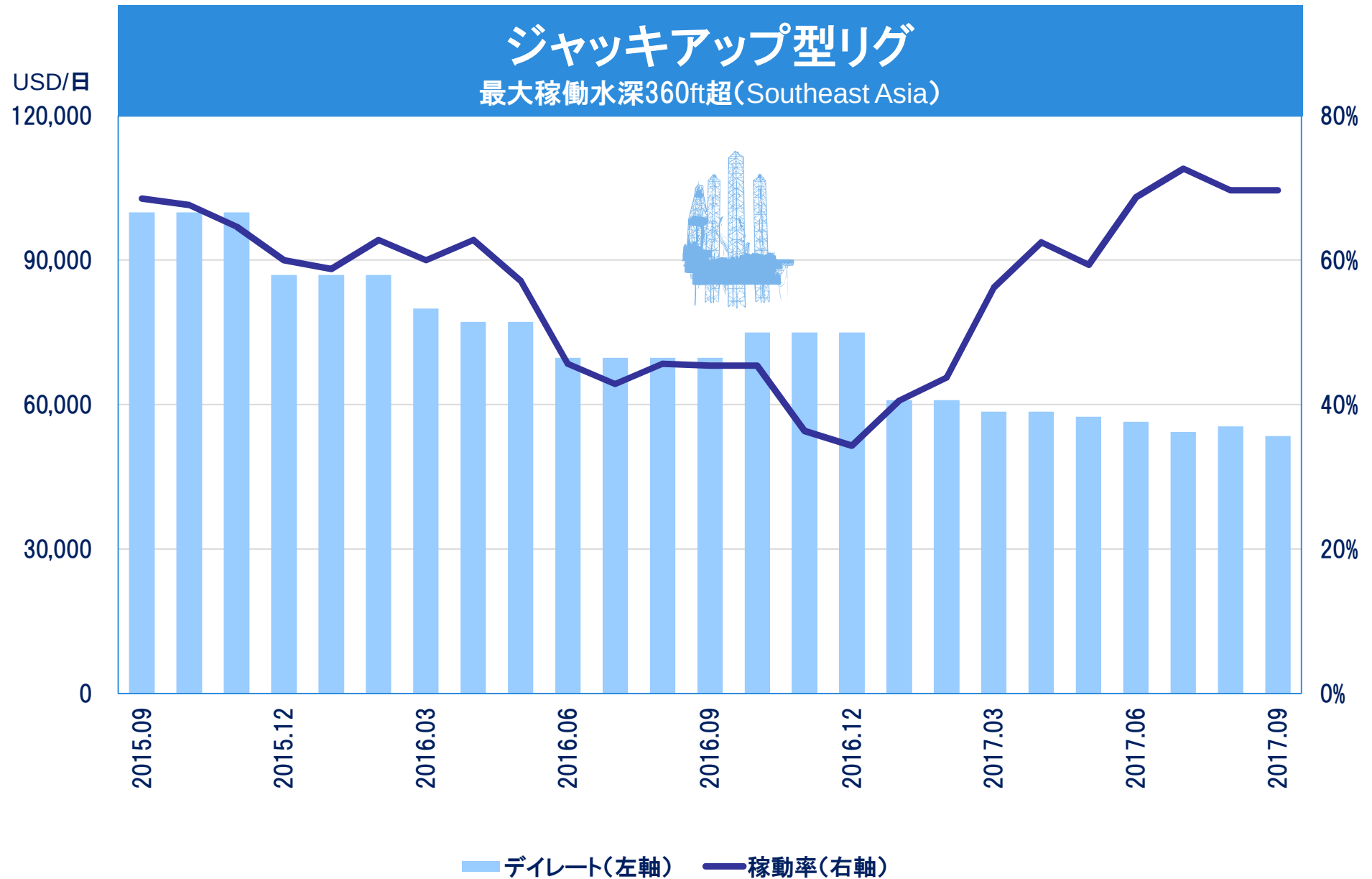
1年前建造中であったリグ179基の現在の状況

完成引渡済			15
建造中	完成引渡延期なし	15	151
	完成引渡延期あり	136	
建造中断			13
合計			179

フローターのデイレートと稼働率推移



ジャッキアップ型リグのデイレートと稼働率推移



2. 2018年3月期第2四半期 決算概要

新たに操業を開始した海洋掘削リグ2基



ジャッキアップ型リグ **HAKURYU-11**

(1) 石油開発会社	Sapura E&P社
(2) 提供先	Petronnic社
(3) 操業海域	マレーシア沖
(4) 作業坑数	ファーム6坑 オプション1坑
(5) 作業開始時期	2017年9月
(6) 作業料金建て	日割作業料率方式



ジャッキアップ型リグ **HAKURYU-12**

(1) 契約先	NOC社
(2) 操業海域	カタール国 アル・シャヒーン油田
(3) 作業期間	ファーム2年 オプション1年×2回
(4) 作業開始時期	2017年9月
(5) 作業料金建て	日割作業料率方式

当社グループ運用リグの状況



2017年9月30日時点



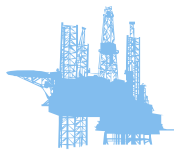
HAKURYU-12

操業中
[カタル沖]



HAKURYU-5

操業中
[ロシア サハリン沖]



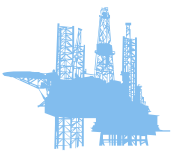
SAGADRIL-1

操業準備中
[アラブ首長国連邦]



NAGA 1

待機
[マレーシア]



SAGADRIL-2

待機、保守・整備
[アラブ首長国連邦]



ちきゅう
JAMSTEC所有

保守・整備
[長崎県 佐世保]



HAKURYU-14 仮称

建造中
[シンガポール]



HAKURYU-15 仮称

建造中
[シンガポール]



HAKURYU-10

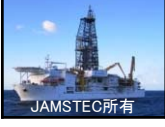
操業準備中
[シンガポール]



HAKURYU-11

操業中
[マレーシア沖]

リグフリート操業実績

2018年3月期		1Q			2Q		
		4	5	6	7	8	9
	HAKURYU-5			Gazpromneft社 [ロシア]			
	NAGA 1						
	SAGADRIL-1						
	SAGADRIL-2						
	HAKURYU-10						
	HAKURYU-11						Sapura E&P社 [マレーシア]
	HAKURYU-12						NOC社 [カタール]
	ちきゅう		JMH社 [日本]				

操業
 科学掘削
 待機、保守・整備

連結損益計算書(前年同期比)



単位:百万円 (百万円未満切捨て)	2017年3月期 第2四半期	2018年3月期 第2四半期	増減	増減率
売上高	10,776	11,746	+970	+9.0%
売上原価	12,280	13,293	+1,012	+8.2%
販売費及び一般管理費	1,186	1,257	+71	+6.0%
営業利益	△ 2,690	△2,804	△113	-
営業外収益	150	154	+3	+2.5%
営業外費用	804	392	△412	△51.3%
経常利益	△ 3,345	△3,042	+302	-
特別利益	-	-	-	-
特別損失	12	178	+165	-
税金等調整前四半期純利益	△ 3,358	△3,220	+137	-
法人税等	295	492	+196	+66.5%
非支配株主に帰属する四半期純利益	86	203	+116	+134.6%
親会社株主に帰属する四半期純利益※	△ 3,740	△3,916	△176	-
1株当たり四半期純利益(円)	△207.81	△217.60	△9.79	-

「HAKURYU-5」 +1,502百万円
「掘削技術」 +1,242百万円
「ちきゅう」 +1,089百万円
「HAKURYU-10」 △1,635百万円
「HAKURYU-11」 △805百万円
「NAGA 1」 △584百万円

「掘削技術」 +1,138百万円
「HAKURYU-12」 +476百万円
「ちきゅう」 +226百万円
「HAKURYU-10」 △292百万円
「HAKURYU-11」 △273百万円
「SAGADRIL-2」 △195百万円

為替差損 | △471百万円

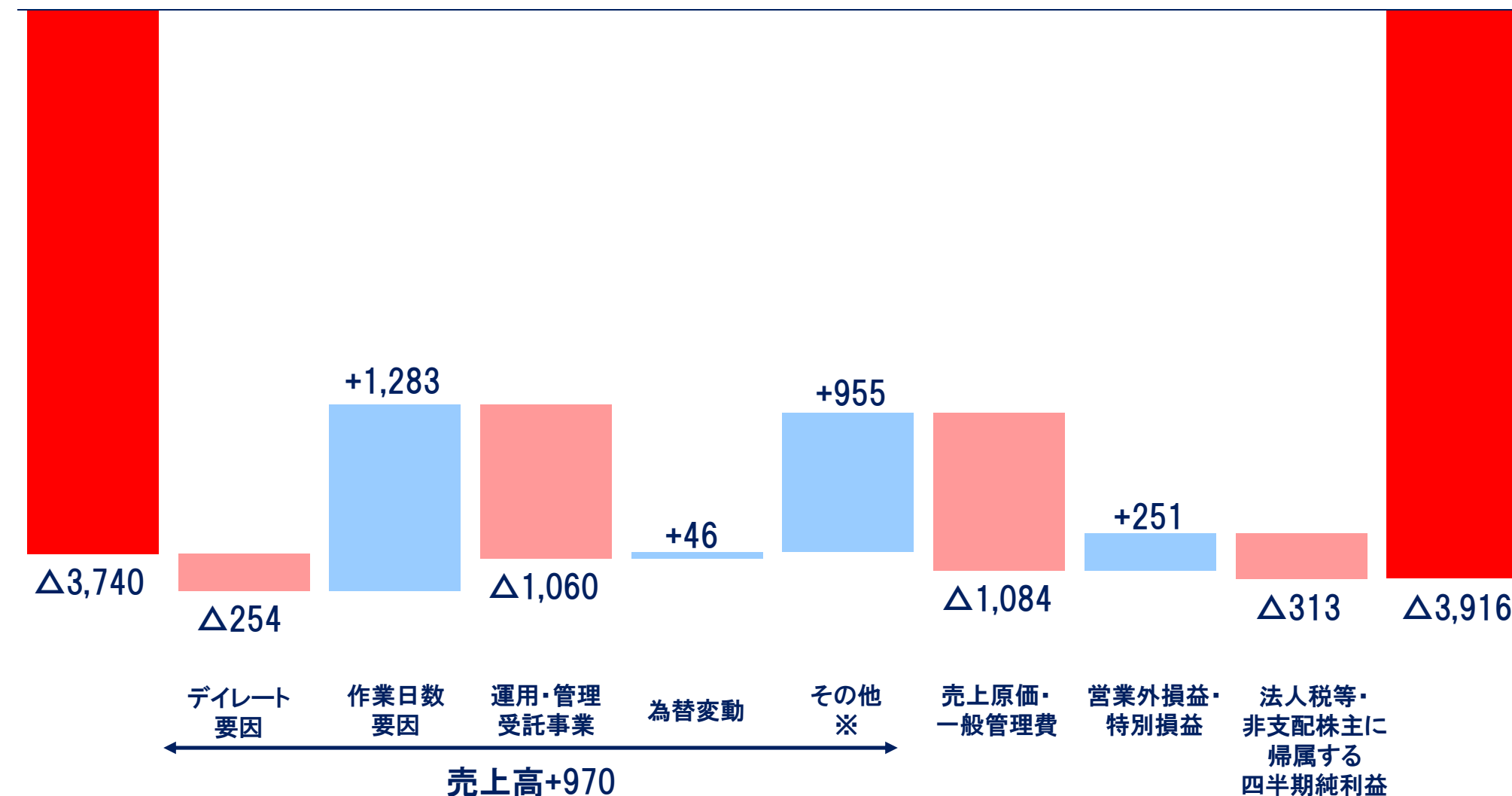
期中平均為替レート
2017年3月期2Q 109.04円/USD
2018年3月期2Q 110.93円/USD

※以下、本資料では「四半期純利益」と略します。

四半期純利益の増減分析(前年同期比)



単位:百万円



2017年3月期
第2四半期
四半期純利益

※売上高その他+955の要因
「掘削技術」+1,242、「HAKURYU-10」復員収入△273 など

2018年3月期
第2四半期
四半期純利益

業績予想比

単位:百万円 (百万円未満切捨て)	予想 (5月11日発表)	実績	増減	増減率
売上高	11,526	11,746	※1 +219	+1.9%
営業利益	△3,182	△2,804	※2 +377	-
経常利益	△3,574	△3,042	※2 +532	-
四半期純利益	△4,262	△3,916	+345	-

※1 売上高

「ちきゅう」商業掘削の作業日数増加などにより増加

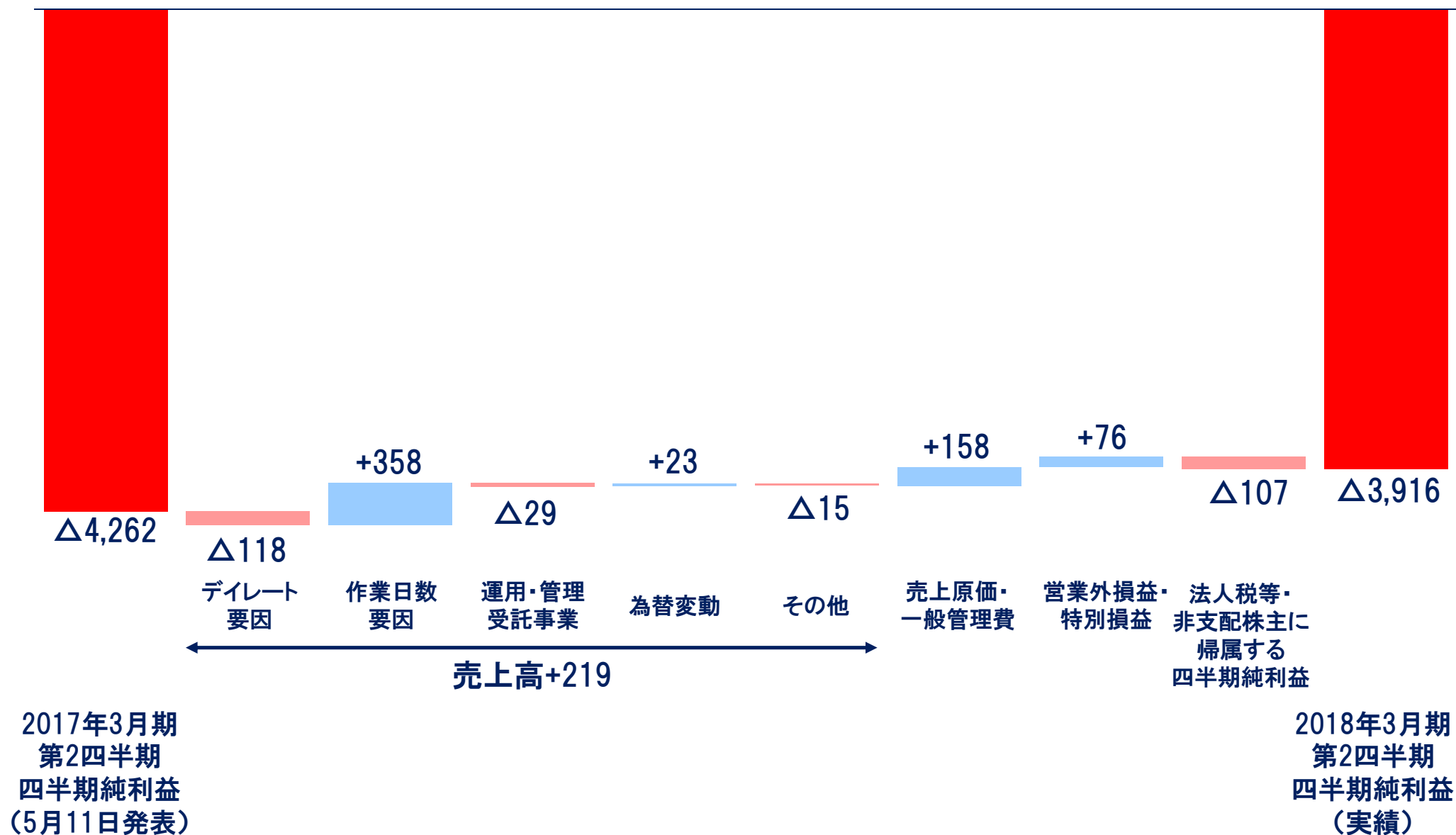
※2 営業利益、経常利益

売上高増加に加え、「HAKURYU-10」の動員費の減少等により増加

四半期純利益の増減分析(業績予想比)



単位:百万円



連結貸借対照表(前期末比)

単位:百万円 (百万円未満切捨て)	2017年 3月期末	2018年3月期 第2四半期末	増減	増減率	
流動資産	49,559	47,116	△2,442	△4.9%	有価証券 未成工事支出金 営業未収入金 △3,000百万円 △1,508百万円 +2,333百万円
有形固定資産	29,121	28,503	△618	△2.1%	
無形固定資産	188	177	△11	△5.9%	
投資その他	1,351	1,310	△41	△3.1%	
資産合計	80,221	77,108	△3,112	△3.9%	未払費用 前受金 未払法人税等 +1,002百万円 +794百万円 +407百万円
流動負債	17,290	19,805	+2,515	+14.5%	
固定負債	33,107	31,164	△1,942	△5.9%	長期借入金 社債 △1,610百万円 △352百万円
負債合計	50,397	50,969	+572	+1.1%	
純資産	29,823	26,138	△3,684	△12.4%	四半期純利益 △3,916百万円
負債・純資産合計	80,221	77,108	△3,112	△3.9%	
自己資本比率	36.2%	32.8%	△3.4P	-	

3. 業績予想

2018年3月期

新たに掘削工事を受注した海洋掘削リグ3基

セミサブ型リグ HAKURYU-5



- | | |
|------------|----------------|
| (1) 石油開発会社 | MDC社 |
| (2) 提供先 | Petronnic社 |
| (3) 操業海域 | マレーシア沖 |
| (4) 作業坑数 | ファーム2坑 オプション1坑 |
| (5) 作業開始時期 | 2018年1月(予定) |
| (6) 作業料金建て | 日割作業料率方式 |

ジャッキアップ型リグ HAKURYU-10



- | | |
|------------|----------------------|
| (1) 契約先 | NOC社 |
| (2) 操業海域 | カタール国 アル・シャヒーーン油田 |
| (3) 作業期間 | ファーム2年
オプション1年×2回 |
| (4) 作業開始時期 | 2018年1月(予定) |
| (5) 作業料金建て | 日割作業料率方式 |

ジャッキアップ型リグ SAGADRIL-1



2018年1月に作業開始予定
(顧客名や操業海域の詳細については
顧客の要望により非開示)

セミサブ型リグ「NAGA 1」の売却



1974年に三菱重工業株式会社広島造船所で完成し、「第三白竜」と命名され、福島県いわき沖で稼働を開始。その後、バングラデシュ、台湾、インドネシア、ベトナム、ブルネイなどの東南アジア諸国や中国で稼働。2005年にマレーシアのUMW Corporation（現UMW Oil and Gas Corporation）と合併でリグ運用会社を同国で設立。また、同リグを共同保有するためにそれぞれがリグ保有会社を設立、リグ名を「NAGA 1」に改称した。2017年10月20日、建造後43年となった本リグを海外のスクラップ業者に売却。

リグフリート操業計画(前回発表:8月7日)

2018年3月期		1Q			2Q			3Q			4Q		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	HAKURYU-5				Gazpromneft社 [ロシア]						[東南アジア]		
	NAGA 1												
	SAGADRIL-1												
	SAGADRIL-2												
	HAKURYU-10												
	HAKURYU-11							[東南アジア]					
	HAKURYU-12							NOC社 [カタール]					
	HAKURYU-14					建造中 [シンガポール]						慣熟訓練 操業準備	
	ちきゅう		JMH社 [日本]					JAMSTEC [日本]					

契約済
 待機、保守・整備
 科学掘削
 受注見込み
 受注活動中

(注) 契約期間中でも、整備工事等のためにリグの稼働を中断させることがあります
 顧客先の正式社名は巻末の略語集参照

リグフリート操業計画(今回発表:11月8日)

2018年3月期		1Q			2Q			3Q			4Q		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	HAKURYU-5				Gazpromneft社 [ロシア]						MDC社 [マレーシア]		
	NAGA 1								売却				
	SAGADRIL-1										[中東]		
	SAGADRIL-2												[中東]
	HAKURYU-10											NOC社 [カタール]	
	HAKURYU-11							Sapura E&P社 [マレーシア]					
	HAKURYU-12										NOC社 [カタール]		
	HAKURYU-14					建造中 [シンガポール]						慣熟訓練 操業準備	
	ちきゅう		JMH社 [日本]						JAMSTEC [日本]				

契約済
 待機、保守・整備
 科学掘削
 受注見込み

(注) 契約期間中でも、整備工事等のためにリグの稼働を中断させることがあります

顧客先の正式社名は巻末の略語集参照

斜線部分: 前回発表操業計画からの主な見直し箇所

通期連結業績予想要約

単位:百万円 (百万円未満切捨て)	5月11日発表	11月8日発表	増減	増減率
売上高	21,385	21,385	0	0.0%
営業利益	△6,841	△6,841	0	—
経常利益	△7,555	△7,555	0	—
親会社株主に帰属する当期純利益※	△8,592	△8,592	0	—

※以下、本資料では「当期純利益」と略します。

受注見込みであった「HAKURYU-5」と「HAKURYU-11」及び受注活動中であった「HAKURYU-10」の新規掘削工事案件を受注したことなどにより増収増益となるものの、第4四半期の受注を目指していた「HAKURYU-11」の掘削工事案件と「ちきゅう」商業掘削案件が見込めなくなったこと、「SAGADRIL-2」の操業見込み日数が減少したこと、及び「NAGA 1」を売却したことなどにより減収減益となったため、5月11日発表の業績予想を据え置く。

第3四半期以降の想定為替レートは110円/USD(前回から変更なし)

4. 業績回復への道筋

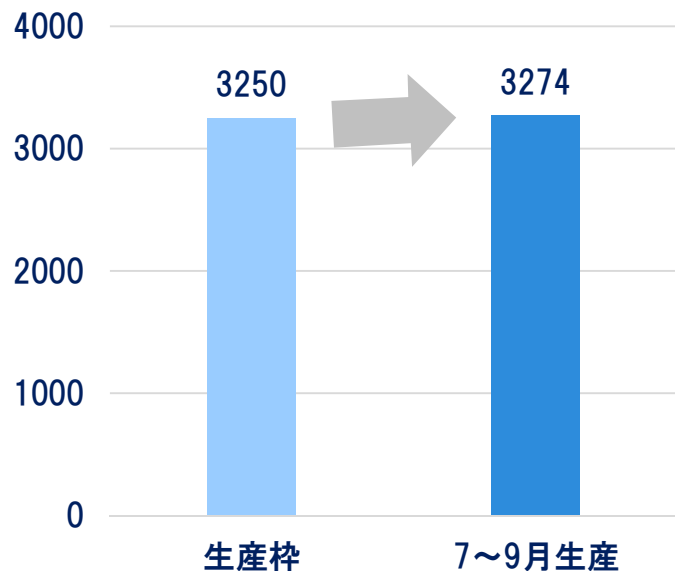
当社を取り巻く環境の好転

	2016年3月期～2017年3月期		2018年3月期（2017年11月8日時点）
原油市況	◆ 2016年3月期：OPEC増産などにより原油供給は過剰となり、原油価格は大幅に下落 ◆ 2017年3月期：OPEC減産開始により原油の供給過剰は解消に向かい、原油価格は上昇		◆ OPEC減産継続、世界経済回復により市況は需給均衡の方向に向かう中、地政学リスクが高まり、原油価格は上昇局面へ
海洋掘削市況	◆ 2016年3月期： ・総リグ数は緩やかに減少 ・リグ稼働率は大きく減少 ・デイレートは全てのリグタイプで下落 ◆ 2017年3月期： ・総リグ数は緩やかに減少 ・掘削リグ稼働率は下げ止まる ・デイレートは全てのリグタイプで下落		◆ 総リグ数の緩やかな減少が続く ◆ リグ稼働率は上昇局面へ ◆ デイレートは全てのリグタイプで下落が続く
当社の取り組み	◆ 掘削契約の確保 ＜受注件数＞ 2016年3月期 2件 2017年3月期 3件 ◆ 徹底した経費節減		◆ 掘削契約の確保 ＜受注件数＞ 2018年3月期 6件 ◆ 徹底した経費節減の継続

OPEC原油生産量

2017年7月から9月までのOPEC原油生産量は日量3274万バレルとなり、2016年11月に開催されたOPEC総会で合意に達した生産枠を24万バレルほど上回ったが、減産は順調に推移している。

万バレル/日

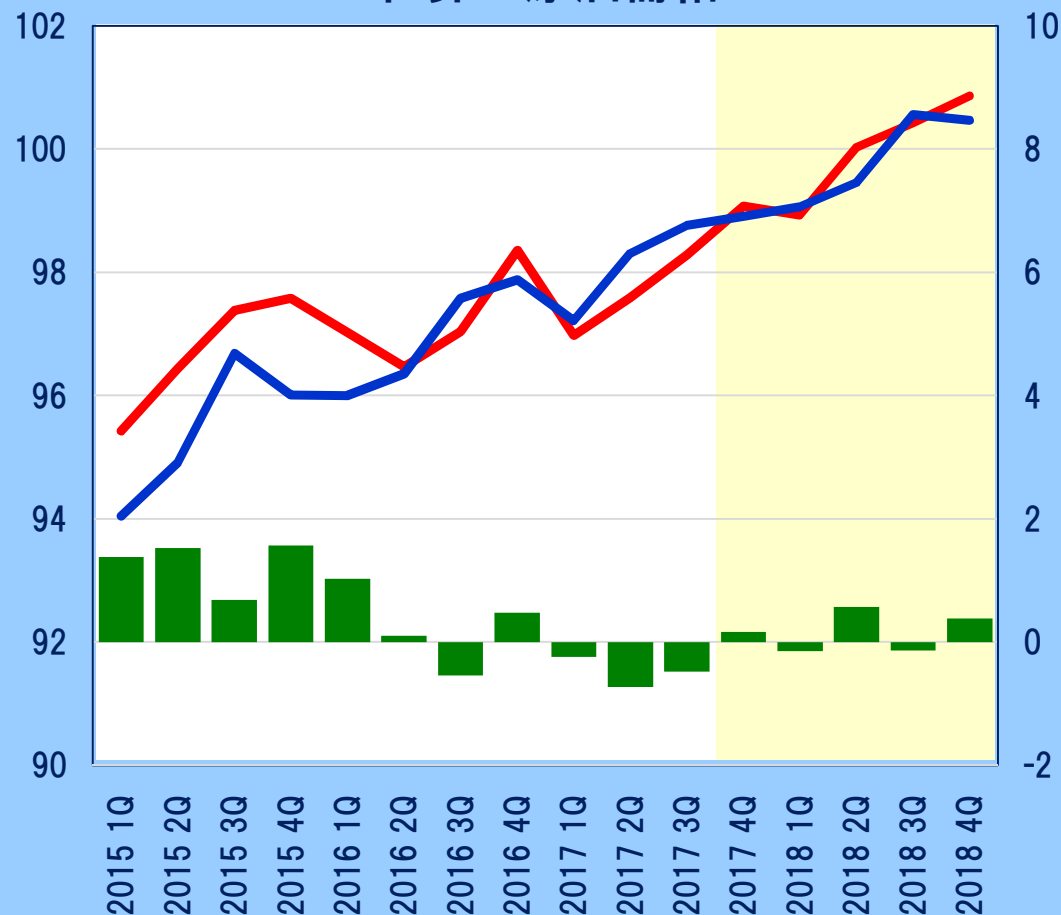


OPEC月報2017年10月号より当社作成

世界の原油需給

百万バレル/日

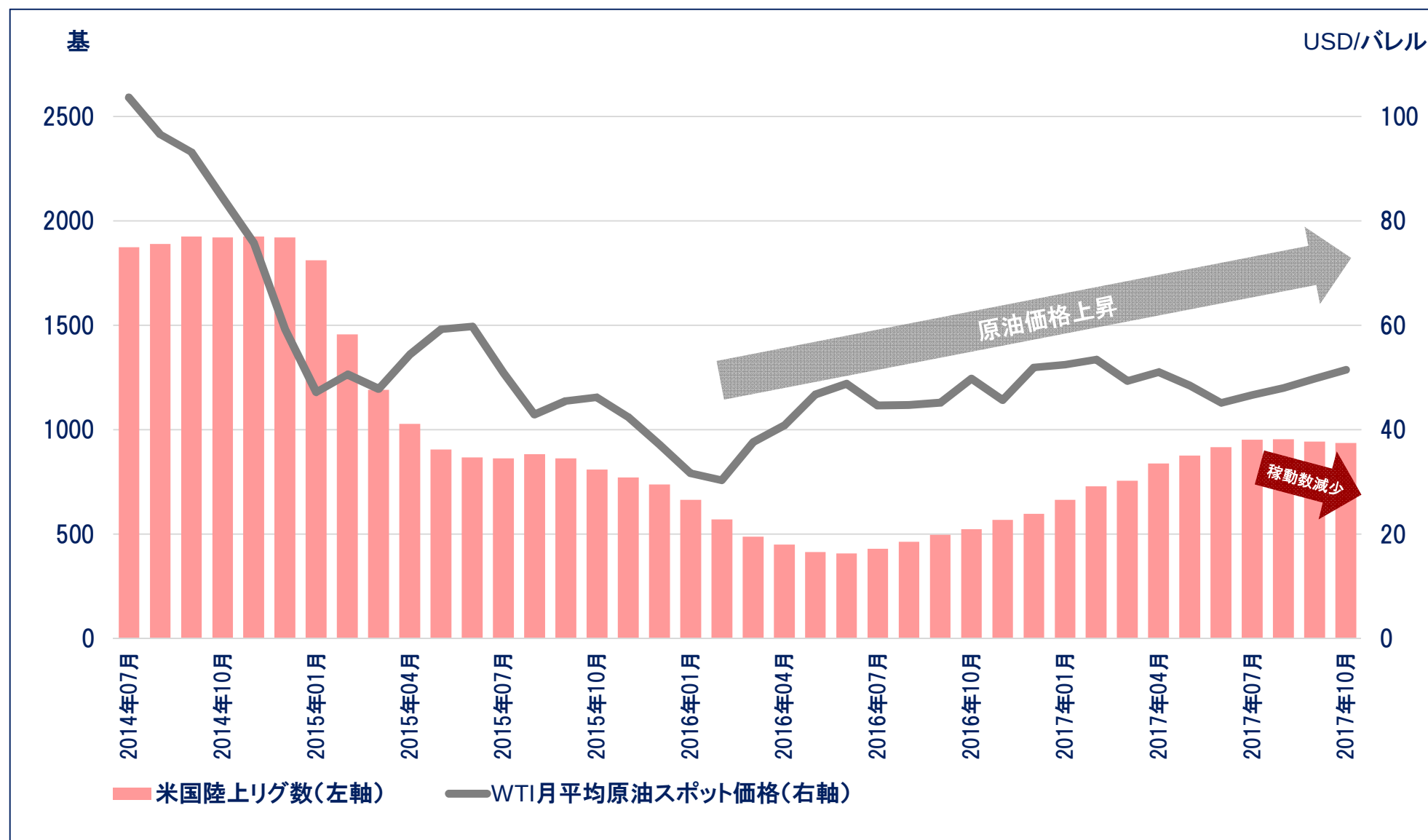
百万バレル/日



■ 原油生産量-原油消費量(右軸)
 ■ 原油生産量(左軸)
 ■ 原油消費量(左軸)

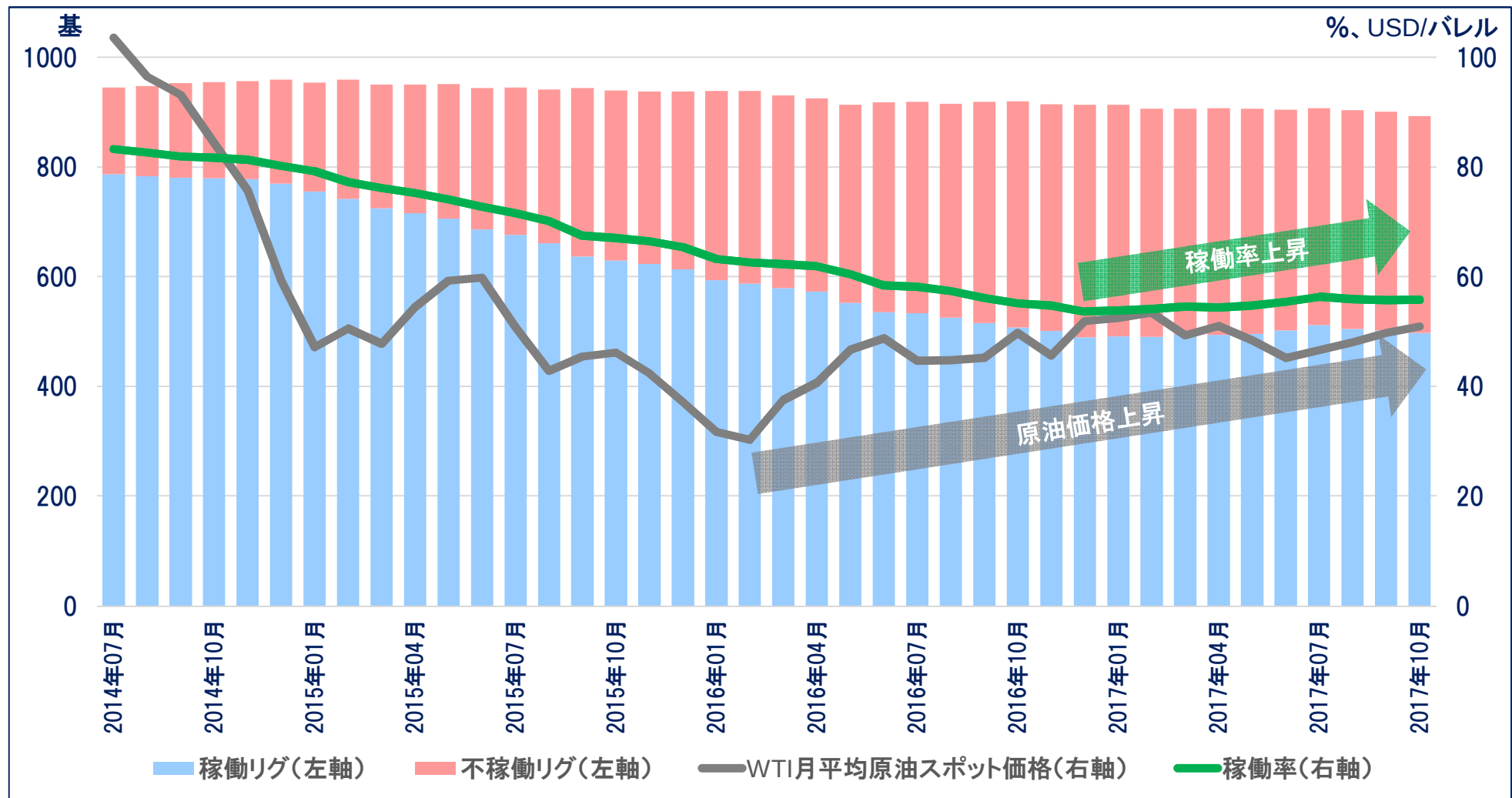
U.S. Energy Information Administration(EIA)2017年10月資料より当社作成

米国陸上リグの稼働数と原油価格の推移



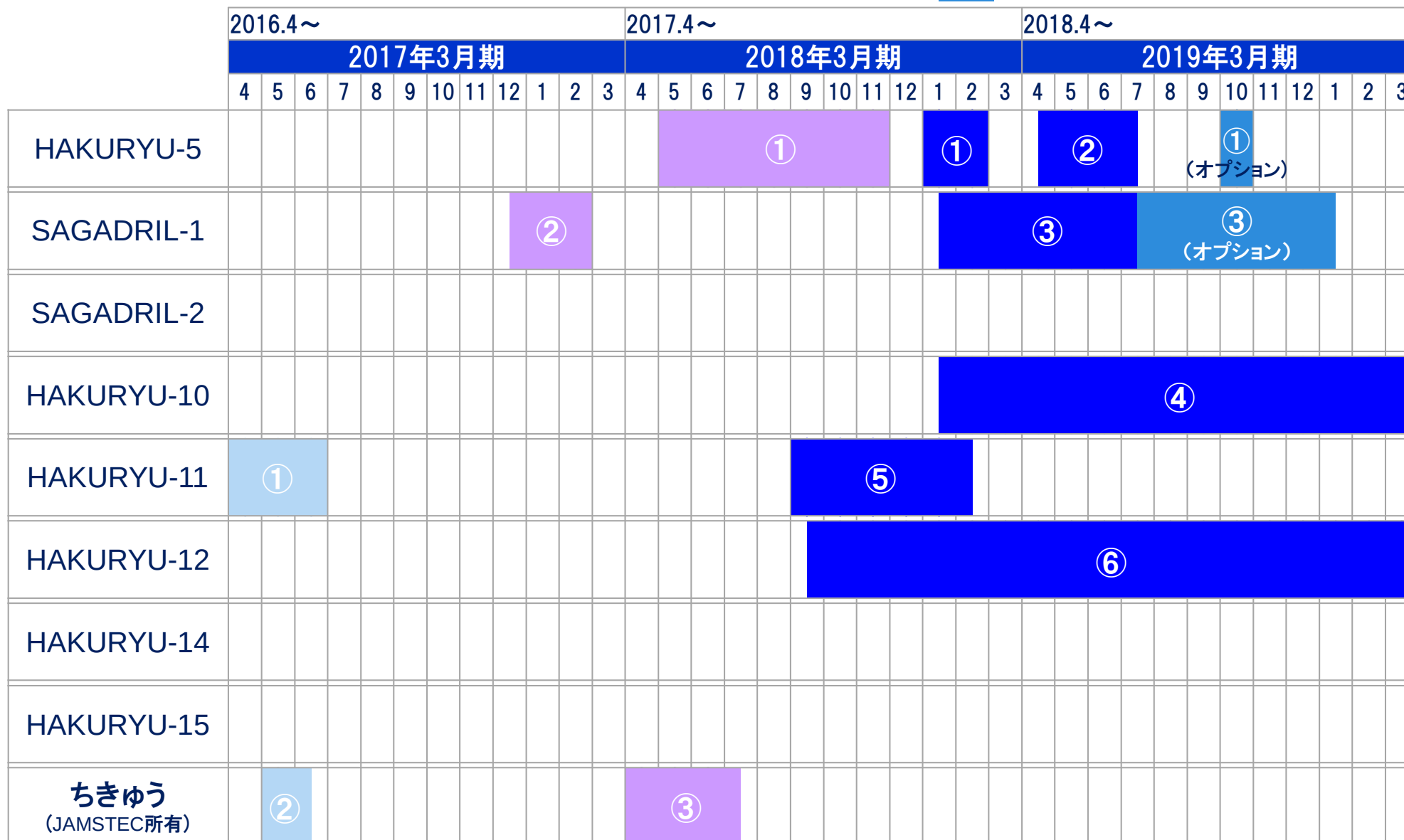
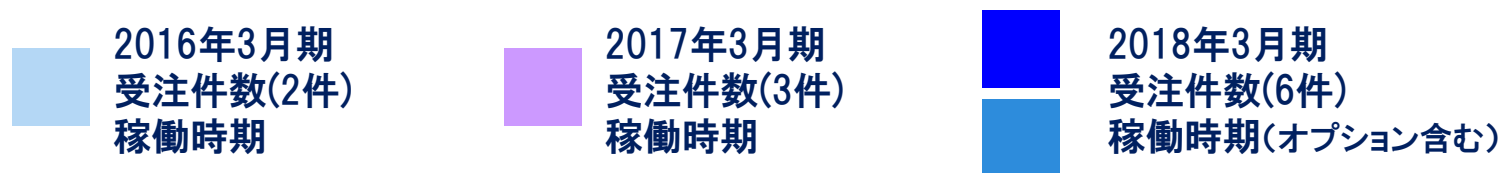
原油価格下落の一因であったシェールオイル生産などの先行指標となる米国陸上リグの稼働数が減少すると、原油価格は上昇する傾向にある

底打ち感が出てきた海洋掘削リグの稼働率



2014年7月から2016年12月までの約2年半、一度も前月比でプラスに転じることがなかったリグ稼働率は、2017年1月によりやく前月比でプラスに転じ、6月以降は55%から56%の間で推移、10月の稼働率は55.8%であった。

増加した受注件数



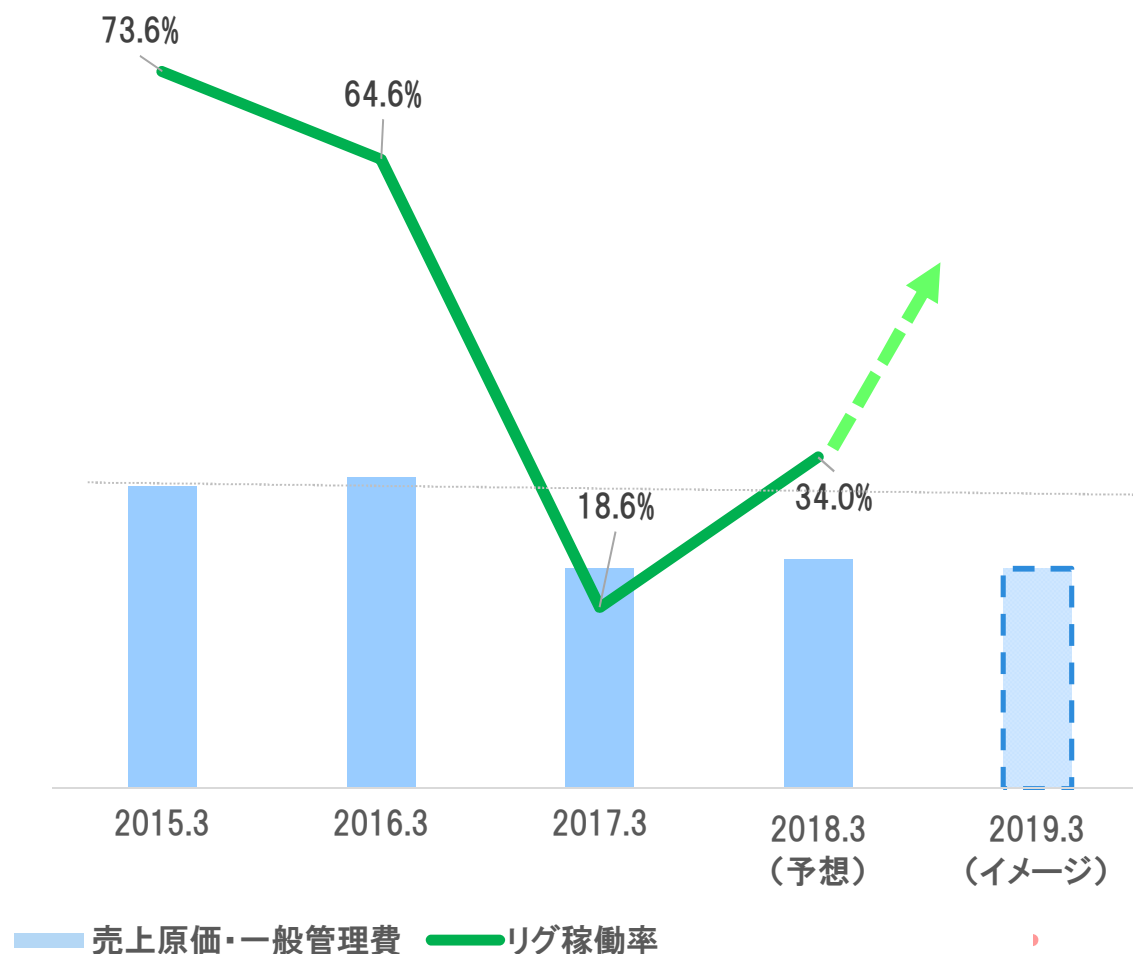
リグフリート中期操業展開

	2017.4～												2018.4～												2019.4～												
	2018年3月期												2019年3月期												2020年3月期												
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
HAKURYU-5		Gazpromneft社 [ロシア]								MDC社 [マレーシア]			[ベトナム]				MDC社 [マレーシア] (オプション)																				
SAGADRIL-1											[中東]			[中東] (オプション)																							
SAGADRIL-2													[中東]																								
HAKURYU-10																						NOC社 [カタール]														NOC社 [カタール] (オプション)	
HAKURYU-11						Sapura E&P社 [マレーシア]																															
HAKURYU-12																		NOC社 [カタール]																	NOC社 [カタール] (オプション)		
HAKURYU-14				建造中 [シンガポール]							慣熟訓練 操業準備																										
HAKURYU-15											建造中 [シンガポール]												慣熟訓練 操業準備														
ちきゅう (JAMSTEC所有)	JMH社 [日本]						JAMSTEC [日本]									科学掘削を行わない期間は商業掘削案件の受注活動中																					

■ 契約済
 ■ 待機、保守・整備
 ■ 科学掘削
 ■ オプション・受注見込み
 ■ 受注活動中

顧客先の正式社名は巻末の略語集参照

「ちきゅう」を除く当社運用リグ7基の稼働率と 売上原価・一般管理費の推移

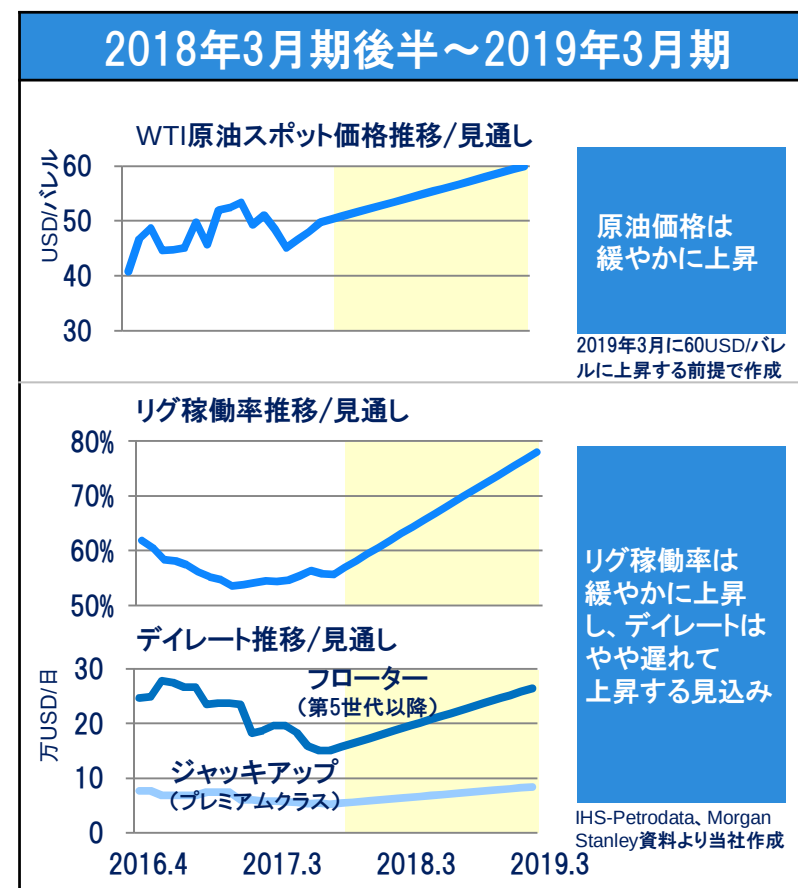


2019年3月期

- ・当社運用リグ7基の稼働率を黒字決算期であった2015年3月期の水準以上に持って行くとともに、売上原価・一般管理費を抑えることを目指す。
- ・現時点でオプションを含めた受注済の稼働率は53.3%となり、今期予想値の34%を上回る。
- ・現在受注活動中の「HAKURYU-11」と「HAKURYU-14」を今後、受注に結びつけることが極めて重要。
- ・安全操業体制を確保しつつ、売上原価・一般管理費を最小限に抑える努力を全社一丸となって推進する。

業績回復への道筋

	2018年3月期前半
原油市況	◆ OPEC減産継続、世界経済回復により市況は需給均衡の方向に向かう中、地政学リスクが高まり、原油価格は上昇局面へ
海洋掘削市況	◆ 総リグ数の緩やかな減少が続く ◆ リグ稼働率は上昇局面へ ◆ デイレートは全てのリグタイプで下落が続く



当社の取り組み	◆ 掘削契約の確保 ＜受注件数＞ 2018年3月期 6件 ◆ 徹底した経費節減の継続
---------	---

2019年3月期
黒字化を目指す

Gazpromneft社...Gazpromneft-Sakhalin LLC

JAMSTEC...国立研究開発法人海洋研究開発機構

JMH社...日本メタンハイドレート調査株式会社

MDC社...MDC Oil & Gas (SK 320) Ltd.

NOC社...North Oil Company

Petronnic社...Petronnic Sdn. Bhd.

Sapura E&P社...Sapura Exploration and Production

本資料ご利用にあたっての注意事項

本資料に記載されている業績見通しや事業環境等の将来に関する記述は、様々な要因により変更となる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ、その他IRに関するご質問は、以下にお願いいたします。

日本海洋掘削株式会社 広報・IR室 電話03-5847-5862